

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501590		
法人名	有限会社 ダイテン福祉サービス		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	〒802-0821福岡県北九州市小倉南区東水町6-7	Tel.093-953-0650	
自己評価作成日	平成23年10月29日	評価結果確定日	平成23年12月09日

・グループホームなかよしでは2ヶ月に1回、運営推進会議のあとにボランティアセンターの方々に
お越しいただいてカラオケ大会、バナナの叩き売り、紙芝居、その他いろいろな行事を行っている。また
ホームの南側に菜園があり、入居者と共に苗の植え付け、草取り、収穫をし食卓にのぼってま
す。また入居者様の体調や天候により左右されますが車椅子の方も一緒にホームの周辺を3~4
人づつで散歩し、季節の移り変わりや、近隣の方たちとの挨拶や、雑談で地域とのふれあいを持っ
ています。またレンタカーを借りて、入居者みんなで、みかん狩り、花見、道の駅に行ったり、外食に
出かけます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「なかよし」は、足立山の紅葉を眺める閑静な住宅地の中にあり、ヘルパーステー
ション併設である。「利用者や家族が安心して、利用出来るための、信頼出来る職員による満足
いただける介護サービスを実践していく」という理念を掲げ、気の合った職員による、利用者一人ひと
りに合わせたサービスの提供で、家族からの信頼は厚いものがある。協力医療機関による2週間
毎の往診と、24時間電話一本で駆けつける主治医の協力で、24時間の医療連携が確立され、利
用者の健康管理は安心して任せられる体制である。また、運営推進会議に地域の方の参加が多
く、顔なじみの関係で、散歩時の会話が弾み、交流の輪が広がりはじめている。今後は地域密着型
グループホームとして、信頼関係の構築と、社会貢献実現に向けて走り出したグループホーム「なか
よし」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年11月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に職員全員で声に出して理念を言っている、又、定期的に会議を開き、理念や日々の方針・目標を具体的に職員に伝え、話し合いを行っている。	「安心・信頼・満足」を理念の柱とし、職員は、毎朝唱和することで理解し、心に留めて、利用者の方々の暮らしが生きがいのあるものになるように努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方には2ヶ月に一回、地域運営推進会議に参加していただき、地域の行事には入居者様、職員で積極的に参加している。	町内会に加入し、神社の清掃、どんと焼き、輪くぐり等の行事や地域の祭り、運動会に参加し、住民と顔なじみの関係である。また、もとパン作りの職人であった利用者のパン作りに地域の方が参加したり、地道な交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2回の地域運営推進会議にて入居者様の日常の様子や、外出の様子、事業所の行いを地域の方々にお話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会は地域の方、民生委員、地域包括支援センター、職員の参加で開催し入居者の様子・行事報告を行うと共に、紙芝居、カラオケ、避難訓練などを行い交流の機会にもなっている。	会議は、2ヶ月毎に開催され、地域の方がたくさん出席している。ホームの活動報告、行事予定のほかに、ボランティアによるバナナの叩き売りやマジック、家族会等を行い、充実した楽しい会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者ケア・制度に関しての相談や判断に迷うときには、市の窓口と相談できる関係ができている。またボランティアの情報提供を受けている。	行政担当窓口へ、情報提供や相談に行き、アドバイスをもらうなど連携がとれている。また、ボランティアの受け入れ相談等、行政を通して上手くいった事例もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議を行いその中で身体拘束、玄関の施錠について話し合いをしている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員に高齢者介護についてのアンケートを実施し、それぞれの思いを聴く取り組みを始め、職員間で定期的に話し合い、身体拘束が利用者にもたらす弊害を理解し、拘束のない介護サービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については職員同士で注意を払い、入居者様の家族にも注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利救護事業、成年後見制度について資料やパンフレットを準備している。また、必要な方には、制度について説明できるようにしている。	権利擁護擁護に関する制度について、資料やパンフレットを準備し、地域包括支援センター職員に話をしてもらう等、職員間で理解を深め、利用者や家族が制度を必要とする時に、説明や橋渡しができる体制である。現在該当者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は入居者様、ご家族の方には十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に御意見箱を設置したり、家族会議にて意見を述べて頂くような体制をとっている。	意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示し、利用者や家族が安心して意見を言える雰囲気である。また、家族会を開催し、家族同士で話し合う機会を提供し、そこで出された意見、「職員の顔と名前が一致しない」を受けて、職員の写真をボードに貼って玄関に表示する等の改善を行った事例がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を定期的で開催して職員からの意見・提案を聞く機会を設けている。	職員会議は毎月定期的で開催し、職員の意見や希望等、自由に発言できる雰囲気作りに努め、活発な会議となっている。また、出された意見は、出来るだけ反映できるよう努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各就業規則を職員がいつでも見れる場所に設置し、向上心が持って働けるよに耳を傾け、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、年齢・性別などを基準にしてない。高齢者に対する基本的な接し方や協調性を大切にし意欲を持った人を優先している。また職員1人ひとりのスキルアップや自己実現に向けての協力体制も整えている。	職員の採用は、年齢、性別、経験等制限はなく、高齢者に対する接し方や協調性を大切にしている。また、職員の休憩室やロッカー等、リフレッシュしながら仕事ができる環境整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する内部・外部研修に積極的に参加している。高齢者だけでなく、子供の人権・障害者の人権・同和問題など幅広い視点で、人権学習に取り組んでる。	内部、外部の研修で人権について学び、職員は高齢者の人権を尊重するために何をすべきか等テーマを持って人権教育啓発活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内外の研修を受ける機会を十分確保している。認知症などに関する研修に参加し、資料をファイルされている。参加できなかった職員にも必ず伝達し、研修内容を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者、職員が集まる研修会に参加などしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人様と話をし、本人様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人様の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご家族様と話をし、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人様、ご家族様と話し合いをして他のサービス利用も必要か話し合いをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様は、食事の準備や、ゴミ捨て、買い物の手伝いなどその時の状況に応じて、入居者様の力を発揮していただけるように取り組んで、日々の暮らしの中で、職員と入居者様が支えあう関係ができています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の要望・意見には耳を傾け、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご友人が気兼ねなく面会に来られるように職員は支援している。また入居者様の馴染みの場所などは職員とドライブで行ったりして支援に努めている。	職員は、利用者の友人、知人、親戚、家族等に気軽に尋ねてもらえるような雰囲気作りを工夫している。また、利用者が昔働いていた所や、自宅の周りをドライブする等、馴染みの場所を思い出してもらい、関係継続の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにはソファを設置して入居者様が孤独にならない環境を作っている。また職員は入居者様に気を掛けて声かけ、見回りをし支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人様、ご家族様の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とゆっくり話せる機会をつくり、意向や希望を把握できるように努めている。意思の疎通が困難な場合は、表情や行動で読み取るようにしている。また家族の協力を得て支援に努めている。	永年勤続の職員が多く、利用者の入居時からの状態を把握している。利用者のちょっとした表情や言葉から利用者の意向を察し、職員全員で共有し、利用者が穏やかに暮らし続けるための支援体制がある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員がいつでも入居者様のパーソナルデータを見れる場所に設置し、1人ひとりのこれまで生活歴や生活環境を把握できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の状態、状況を職員は申し送りでも明確に伝えるように努めている。また会議にて入居者様、1人ひとりの状況、状態を話し合う機会を作っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議に介護計画を作成する職員が参加し、本人様の現状、日々の状況、状態、それぞれの意見を話あって介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の希望を聴き取り反映させ、スタッフ会議で検討しながら定期的に作成している。利用者の状態に変化があった場合は、家族、主治医と連絡を取り合い、迅速に対応し、見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な会議にてケアや気づいた点などは入居者様、個別に話し合いをしている。なおその時にでた意見は実践して次の会議にて結果を報告している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二か月に一回は地域のボランティアセンターからボランティアに来ていただき、バナナの叩き売り、マジックショーなど披露していただける、なお入居者様も参加できるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診に来ていただいている、なおかかりつけ医の情報やなどは契約時にお話をさせていただいている。	利用者や家族の希望でかかりつけ医を選択してもらっている。24時間の医療連携体制を充実させるため、主治医との緊急連絡体制を整え、いつでも往診可能な体制である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の往診時に入居者様の状況、状態を看護師に伝え、適切な指示、処置をうけられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院に職員がうかがって情報交換や相談できるように努めている、またいつ病院関係者から連絡があっても対応できる体制は整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに関しては、契約時に説明している。また、家族の協力もあり、医療と連携しながら往診してもらえる医院があるが、今のところ病院を希望される本人や家族が多い。	ホームで出来ること、出来ないことを、利用者や家族に説明し、理解してもらった上で、重度化や終末期に向けた支援をしている。また、主治医のアドバイスで緊急時の医療体制強化を目指し取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応は全職員ができるようにしている、また緊急時のマニュアルや連絡先を張ってある。これから応急手当てなどの訓練を定期的に行う予定。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行って避難できる方法を全職員が身につけている。また非常食や移動用毛布を玄関口に設置している。	消防署の協力で、災害対策と兼ねての避難訓練を、年2回実施している。運営推進会議等を活用し、地域の方の参加、協力をお願いし、また、非常食、飲料水、毛布などの備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、入居者様、1人ひとりの誇りと尊厳を損なわないように言葉かけに注意している。個人ファイルや記録類も、他者が目に付かないように事務所に保管・管理されている。	利用者の尊厳を守るため、職員会議や申し送り時に常に話し合い、声を掛け合い、利用者のプライバシーを確保するための支援体制がある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人様が思いや希望を表したり、自己決定できるように言葉かけや表情や仕草に気を掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。起床・散歩・外出・買い物など入居者の希望にそった個別の支援を行い、入居者様のペースを尊厳したケアを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく本人様に自己決定していただき、外出時には気兼ねなくおしゃれ出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や配膳・盛り付けは声かけし、入居者様になるべく行っていただくように支援している自らの役割として入居者様の中には厨房に立ちお手伝いをしてくださる方がいる。	利用者は、職員と一緒に、ジャガイモの皮むき等の下ごしらえから、配膳、下膳等、食事作りに関わっている。同じテーブルで同じものを食べながら談笑している食事の光景は、家庭的で微笑ましいものであった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保出来るように支援している。また入居者様になるべく水分摂取、食事が出来るよう職員が状況に応じて、ミキサー食、栄養補助食品を駆使して支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に口腔ケアを行っている、口腔ケアが1人で行えない入居者様は職員と口腔ケアをして口腔状態を確認している、また本人様の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者みなさまにはトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンや日常的な習慣を把握し、優しくさりげない排泄の自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解している。また冷たい牛乳を飲んでもらうなど、薬以外の予防や対応も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室の大きな窓から、浴室専用の庭園が見え、気持ちよく入浴できる環境を作っている。入浴日の設定はあるが、入居者様の希望に合わせて、毎日入浴できるに支援している。	お風呂の広い窓からは日本庭園風の中庭を眺めることができ、開放的な気分で気持ちよく入浴できる環境である。また、入浴を拒否される方に対しては、時間をずらして説得したり、対応する職員を代えたりしながら、粘り強く対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と連携をとり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。また職員は睡眠前の言葉かけにも注意し、安心して休めるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所にいつでも職員が処方箋やお薬手帳が確認でき理解できるようにしている。また新しく処方された薬は申し送り、会議などで職員に説明をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は入居者様の生活歴や役割など理解しており、入居者様に庭の手入れをお願いしたり、過去の職場にまつわる記念館に外出したりして支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望や天候に配慮しながら、散歩に行っている、入居者様の状態に気をつけながら、みかん狩り、花見、ドライブなどお出かけできるよう支援している。	買い物、外食、ドライブ、畑の手入れ等、利用者と職員は、時間の許す限り外に出かける努力をしながら、健康管理を心がけている。また、利用者自慢の畑で収穫した新鮮な野菜は食卓に並び、利用者、職員全員の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の所持金は主に事務所の金庫で管理しており、外出や必要な場合には、お金を所持したり使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が自ら電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井には大きな灯り取りの窓を設置して、開放感あふれる空間を作ってる。また共同空間には、季節を感じさせる作品を飾り、キッチンからは食事の準備の音や香りが漂い生活感ができるように工夫している。	家庭的な雰囲気のある玄関からホーム内に入ると、天窓から柔らかな光が降り注ぎ、テレビの音やBGMにも配慮しながら、利用者が、落ち着いた気持ちで一日を過ごせるような環境作りに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやイスをを設置して1人になれたり、気の合った利用者様、同士で思い思いに過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみのある装飾品、家具、仏壇、写真などを持ち込んでいただいて、1人ひとりの個性ある部屋にしていただき、安心して暮らせるよう環境づくりに配慮している。	利用者が家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇、小物等を持ち込み、出来るだけ自宅と違和感のない環境で、穏やかに居心地良く暮らせる居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には、ウォーキングマシンでいつでも運動できるようにしている。また薬品や洗剤などは入居者様の目に入らないように工夫している。		